

講義名	教養特講Ⅰ（プレゼンテーション技法入門）		
科目区分	教養特講		
担当教員	大島 淑恵		
開講期・曜日・時限	前期 水曜日 3時限	授業形態	
	2020年度 人間社会学部 人間健康学科/2020年度 人間社会学部 観光学科/2020年度 人間社会学部 人間社会学科/2020年度 経済学部 経済情報学科/2020年度 経済学部 経済学科/2020年度 商学部 マーケティング学科/2020年度 商学部 経営学科		
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要
<p>グローバル化が加速する近年において、ビジネスシーンや社会生活の中で多くの情報を扱いながら、企画や提案の理解を他者に求める機会は日常的に存在する。プレゼンテーションとはコミュニケーションの一つであり、目的を達成するために、相手に意思決定や行動を促すことがある。そのため、プレゼンテーションの意義を理解し、企画と設計から相手への情報提供による働きかけができるように、実践的な知識と技術を身につける。</p> <p>1年生の必修科目「自己発見とキャリア開発A」の成果スライドの作成に始まり、演習での発表や、社会連携・社会共創活動における発表など、「プレゼンテーション」の機会が多いこの科目では1年生を対象に、より実践的に体系的で幅広いプレゼンテーション技法の基礎や考え方を学ぶ。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 1. プレゼンテーションの意義を理解し、実践的な知識と技術を身につける。 2. 相手に理解を得る技法を身につけ、伝える力を向上させる。 3. 問題解決やPDCAサイクルの思考をプレゼンテーションで実践できる。 4. プレゼンテーションの原則から、テーマに沿った準備と発表ができる。 5. 何故そのテーマを選んだのか、何を、どのように相手に伝えるのか、聞き手を主体としたプレゼンテーションができる。 6. 目的のために相手に働きかけができる。

提出課題
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業内での個人及びグループワークによる課題を提出。 ・ プレゼンテーション発表資料の提出。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出課題を評価し返却する。 ・ プレゼンテーション発表後に講評する。

評価の基準
<ul style="list-style-type: none"> ・ 提出課題（40%） ・ 授業への積極的参加度（30%） ・ プレゼンテーション課題資料（10%） ・ プレゼンテーション発表（20%）

履修にあたっての注意・助言他
<p>授業の到達目標を達成するには、継続的な授業参加が必要。個人やグループでの演習が中心となるため、積極的な授業参加が望ましい。新聞やニュースなどの時事に関心を持ち、日頃から気づきをメモするなどしてプレゼンテーションに活かすよう心がけること。</p>

教科書

プリント資料及び参考文献
<p>授業毎に資料配布および参考文献等を提示</p>

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の概要と評価方法の説明 2. プレゼンテーションの概要と基本：構想・企画・立案について -情報収集と取捨選択- 3. プレゼンテーションの構成：ストーリー構成 -ストーリーの組み立て方から展開方法- 4. プレゼンテーションの設計：報告書や企画書等、簡潔に見やすく伝える -用紙1枚で表現する- 5. プレゼンテーションの展開：ストーリー展開（グループワーク） 6. プレゼンテーションの表現：魅せる資料の作成について -グラフやチャート図について- 7. プレゼンテーションの情報：情報収集の仕方から取捨選択 -データの見える化- 8. プレゼンテーションの図解：文章をチャートで表現する -目でわかりやすい表現とは- 9. プレゼンテーションの資料作成： -発表方法と資料作成、シナリオ作成- 10. プレゼンテーションの作成演習：（グループワーク） 11. プレゼンテーション発表準備：バーバル・ノンバーバルの伝え方、効果的な発表方法 12. プレゼンテーション発表技法：質問の仕方、受け方の基本、リハーサル 13. プレゼンテーションの実践：（グループワーク） 14. プレゼンテーションの振り返り：（グループワーク） 15. まとめ <p>※この授業計画はシラバス執筆時のものであり、受講生数によっては、変更する可能性がある。</p>

授業形態（アクティブ・ラーニング）
<p>ア：PBL（課題解決型学習）</p> <p><input type="radio"/> イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）</p> <p><input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート</p> <p><input type="radio"/> エ：グループワーク</p> <p><input type="radio"/> オ：プレゼンテーション</p> <p>カ：実習、フィールドワーク</p>

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
<p>授業時に次回までの準備学修について説明する。 プレゼンテーション資料作成および発表に向けて準備が必要となるが、予め授業内で説明する。</p>

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
<p>演習を中心とした授業となるため、コミュニケーションを図りながら進行する。 プレゼンテーションの設計から発表に至るまで、論理的思考による言語化と表現を身につけるよう、常に協創を心がけて取り組む。</p>

実務経験の有無及び活用
<p>「実務経験あり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オフィス機器メーカーにて、企業へ販売促進のためのプレゼンテーションを実施。 ・ 社内の業務改善や新規企画や企業への業務改善を提案。 ・ 勤務校にて、企画立案・改善提案に携わる。 ・ 学会発表に参加。

備考
<p>※この授業計画はシラバス執筆時のものであり、受講生数によっては、変更する可能性がある。</p>